

みんなくりポジトリ

国立民族学博物館学術情報リポジトリ National Museum of Ethnology

アンデスの食事マナー (「食事マナーの変遷と比較」
: カラー企画 各地に見る食事マナー)

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-03-14 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 山本, 紀夫 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10502/00008382

ボリビア・ラパス県アマレテ村の祭りの光景。



写真提供：山本紀夫氏

○ アンデスの食事マナー ○

山本紀夫

専門領域◇民族学
現職◇国立民族学博物館教授
著書◇「インカの末裔たち」(日本放送協会)、「ヒマラヤの環境誌―山岳地域の自然とシエルバの世界―」(八坂書房・共編著)ほか

ペルーやボリビアあたりの、かつてインカ帝国が栄えた地域にくらす人々は今も当時の公用語「ケチュア語」を話すので「インカの末裔」と呼ばれている。ここでは食事の準備の時、男性がしばしば手伝う。また祭りの時などは男性が料理を女性にせつせとサーブしてまわる光景も珍しくない。

一方同じアンデスでも「料理をする奴は男じゃない」という社会もある。それは先住民のケチュアの人たちとスペイン人との混血であるメステイソが暮らす村。メステイソはケチュア語だけでなく、スペイン語も話し、その社会や文化はスペインの影響が強い。「料理をする奴は男じゃない」という考え方もアンデス本来のものでなく、スペイン由来のものらしい。男女が別々に座り、別々に食事をする。

メステイソ社会にはスペイン語でマチモスとよばれる男らしさを強調する言葉があり、それがメステイソ社会の価値観を代表するものとなっているのである。それでは、村祭りや男女が別々に座り、別々に食事をするのもスペイン由来なのだろうか。面白いテーマだが、まだ答えはない。